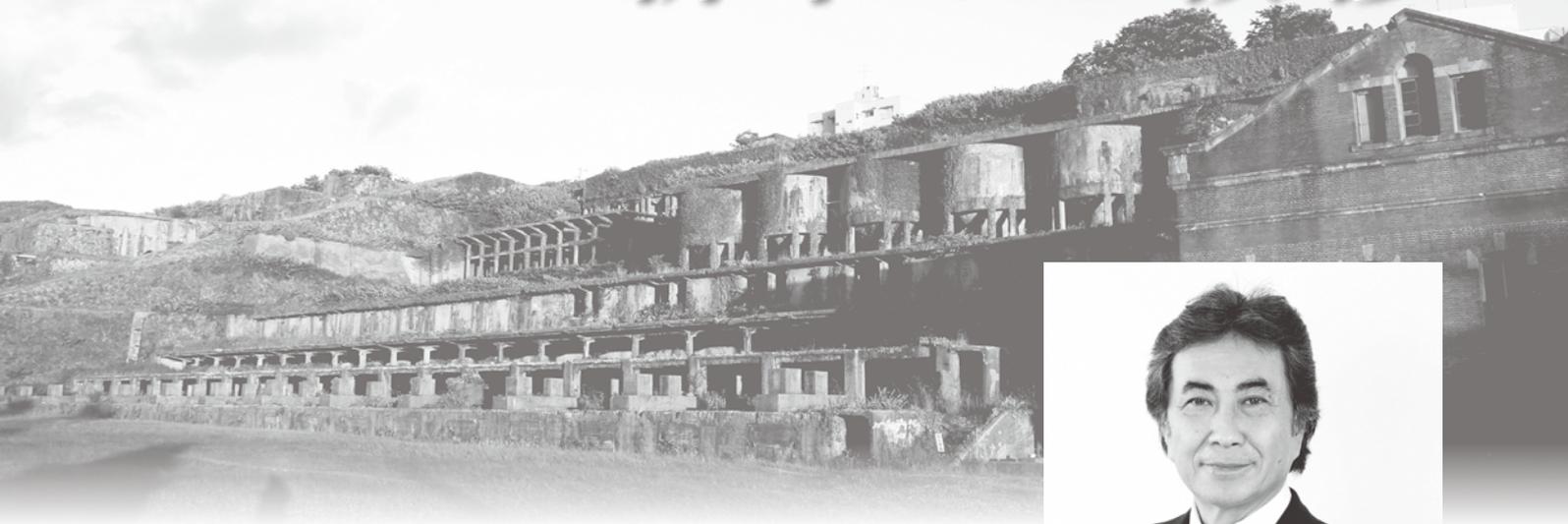


# 新年のご挨拶



## 佐渡再生への具体化の年

佐渡市長 三浦基裕

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は7月下旬、50年に1度という豪雨に見舞われ、島内各地で大きな災害が発生しました。その被害総額は新潟県の所管部分も含めて60億円をはるかに越えてしまいました。国の災害査定もようやく終わり、早期の完全復旧を目指しますが、規模の大きさもあって、復旧作業は年度をまたいで続けることになりま

す。一部地区の皆さまには、もうしばらくの間、不便をおかけすることになります。ですが一日も早い作業の完了を目指しますので、ご理解願いたいと思います。

また、市では現在、平成30年度の予算編成作業を続けております。従来型の予算編成から脱皮し、スクラップ&ビルドを徹底しての予算編成が必要となります。

本年度（29年度）は、出産から社会への巣立ちまでを一環サポートするための「子ども若者課」を新設。地場産業から観光まで連動した資源作りのために関連各課を「産業観光部」に集約するなど、いわゆる縦割り行政から脱却するための組織改編をさせていただきながら、佐渡再生へ向けての具体的な計画作りをさせていただきます。

新年度は、これをさらに具体化していく年度として位置付けています。

交流人口の拡大に向けては、金銀山の

世界遺産登録への国内推薦獲得へのチャレンジを続けるとともに、この島に眠っている観光資源の掘り起こしに注力します。一次産業はもとより、各地域に伝わる生活習慣までもが、佐渡にとつては価値ある観光資源になりうるのです。そのために観光地域づくり法人（DMO）を設立し、佐渡の特長を生かしたさまざまな観光資源を磨き上げていきます。また、伝統文化・芸能・建築物などを維持、保全を担うための財団法人も設立する予定です。

地場産業においては、農業の複合・大規模化へのモデル事業をスタートさせながら、それぞれの地域の特性や、自然と共生する農法なども活かしながらの地産の強化や後継者育成につなげるためのルールをしっかりと敷いていきたいと考えています。

これらを市民の皆さまに分かりやすく説明し、理解していただきながら、一歩一歩しっかりと佐渡島を元気にしていきたいと思えます。